

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：空間分布と交通行動	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：15：00～16：30	
司会者名（所属）：橋本 成仁（岡山大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 生活時空間シミュレータやプローブパーソンによる超長期的なデータの利用可能性が高まっている。 従来交通計画の常識を変更させうるこれらの道具・データをどのように利用できるのか、その可能性を考えた。
	（10）則竹茂年（豊田中央研究所）： ・効用について最大化するものとして、個人の効用を用いているが、車の使い方などを検討するには、送迎などによる制約条件及び世帯としての効用を最大化させることを考えるべきでは？ ・地域ベースでシミュレートした方がイメージがわかりやすく有益では？
	（12）武智 環（愛知大学） ・長期的なデータを集めるためのコストを考えると、どこまでの期間とれば良いのかが知りたい。 1年・3か月・1か月、どれだけとれば傾向が分かる？ ・スケールフリー性について、示された点が議論の中心となり、また、それを計画等にどのように活かすのかが話し合われた。